

総合講評

審査員から各チームへの講評は以下のとおり。

チーム名	講評
美女と野獣	<p>非常に素晴らしかったのが、まずやる気とプレゼンの意欲ですね。このプレゼンテーションがすごく上手で、あとスペシャリストと実際ジェネラリストについてどのように考えるかという視点が秀逸でした。惜しむらくは、具体的な解決案のアイデアがやはり少しまだ概念的であったこと。これをぜひもう少し掘り下げると、なかなか面白いプレゼンテーションになったのではないかと思います。</p>
岩手大学 男女共同参画推進学生委員会	<p>このチームの特徴は、課題の把握が非常に的確で、皆さん感嘆していました。その風土であるとかワークライフバランスへの理解、キャリアの指導不足などといったかたちで、非常に課題についてよく理解をされているということを皆評価しております。ではなぜ優勝に至らなかったかといいますと、解決案のアイデアが人事中心だったので、もう少し全体的なアイデアとしてどこに切り込むかというところがあるとより良いプレゼンテーションになったかと思えます。</p> <p>非常に楽しく聞かせて頂きました。ぜひこの結果を地域の振興のほうに活かしていただきたいと強く願っております。</p>
こたつむり@山谷ゼミ	<p>様々な問題点を指摘していただいた中で、人事評価に関して非常に鋭い意見が多く、こちらもみんなで感嘆しておりました。ではどこが改善点だったかと言いますと、人事評価以外の部分についてももう少し言及があって且つ対策があればよりよいプレゼンテーションになったと考えます。しかし本質は非常に突いていまして、一体これは誰のための制度ですかという言葉については審査員一同とても感嘆しておりました。</p>
同志社大学山谷ゼミ 2年生	<p>非常によく勉強されていて、課題に対して一通り流れを追って対策を立てられているという流れはすごくよくできているということで私たちは評価しております。次のポイントとしては、それを今度はどういうふうに深く掘りこむかという事を、機会があったら追求していただきたいと思えます。でもすごくチームワークが良さそうで、きっと楽しくゼミでやっていらしたんだろうなというのを雰囲気として感じました。</p>
あかりんご	<p>あかりんごさんは次点でした。私たちが非常に評価したのは理系の皆さんだけあって構造化が上手だったんですね。一体何がどういう問題で、どこを直せばいいのかという課題と、その問題の相関関係。さらにそれに対してどういうアイデアがあるかという構造</p>

	<p>化。アイデアの中でやはりキャリマムのアパレル創出というアイデアはみんなで非常に高く評価をしております、これは面白かったです。</p> <p>次点に至った理由として、やはり女性でちょっと閉じていたんですね。この女性の中での問題点、女性の中での活躍ということでは輪がよく回っているんですけども、ではこれをどうやって全社の運動にするのか、あるいは男性社員を巻き込んだり、リーダーシップの人たちを巻き込むのかというところの展開をまでもう一步踏み込めれば、より良いプレゼンテーションになったと思います。</p>
CREAM	<p>私たちが一番高く評価をしたのは、不公平に関してはっきり言及したことです。すなわち女性のほうに優遇をすると男性にとって明らかに不公平な施策になってしまう。これは非常に正しい視点なんですね。これまでなかなか女性活躍が進まなかったのは、男性と女性の対立があったからなんです。ですので、その発想とか視点は非常に正しかったので、あとはそれを具体的にどう切り込むかというところについて、ぜひより深めていただければと思います。</p>
同志社C - 7	<p>課題の設定も非常にバランスよく、A社、Bさん、Cさんという視点ではなくて、A社としてどのような視点があるのかというものに高めてほぼ課題についてはきれいに出来ました。対策について、私たちもやはり強く評価をしていて、逆にある意味割れたんですけども、その管理職のアファーマティブアクションになった人たちをどうやってメンタルケアをするかということについては、すべてのチームの中で一番秀逸なアイデアをたくさん出していただきまして、そこについてはすごく高い評価になっています。逆にそれ以外の部分について言うと、本当にどうやって行っていくのかというところについて言及があればより良いプレゼンテーションになったと考えます。</p>
竹ノ谷知香	<p>「この1ヶ月間考え続けた」だけあって、そのまま使えるのではないかというアイデアが満載で、4人の審査員中2名が1位に押し、結果として総合点として1位になりました。伝えたいという強い意欲が分かりました。</p> <p>総評にも繋がるんですけども、このように新しく女性活用をしようとした場合には、これまでの仕組みを変えないまま対処療法的にパッチを貼ってもダメなんです。結局これまでの仕組みそのもののバックボーンと言いますか、主軸、例えば人事評価を含めてそこをどう有機的に、しかも職場の皆さんが納得していく状態でボトムアップもトップダウンも加えながら変わっていくかというのが一番難しい変革なんですね。竹ノ谷さんがおっしゃっていただいた対策というのはそれにすごく近いものがたくさん提案として組まれていましたので、私たちも高く評価をしました。</p>

さくらもち

さくらもちさんの課題設定も非常に正しくて、やはり女性のみの優遇というのはおかしいのではないか、女性のみですべて解決しようということがおかしいのではないかという視点が非常に高く評価されました。ただ、対策については、残念ながら今までの対策で似たものが出てしまったので、どうしてもプレゼンテーションの最後だったという不利もあって、なかなかちょっと高い評価に至らなかったんですけども、非常にバランスの取れた良いプレゼンテーションだったと思います。